



市町村のまちづくり

ースケートパークを活用したまちづくりー

笠間市都市建設部都市計画課 中口 敬太

■はじめに

笠間芸術の森公園は、茨城の新しい文化の発信基地として、伝統工芸と新しい造形美術をテーマに、平成4年に開園した計画面積54.6haの県営都市公園であり、管理を笠間市が担っている公園です。さらなる公園の魅力向上や地域活性化を目指し、令和3年4月に「ムラサキパークかさま」が開園しました。

本市では、指定管理者制度など様々な形で民間活力を導入しながら、施設のストック効果を活用したまちづくりに取り組んでいます。

■施設の概要

施設名：ムラサキパークかさま
(笠間芸術の森公園スケートパーク)

所在地：笠間市笠間2345

面積：2.5ha (スケート広場4,600㎡)

主要施設：ストリートゾーン
パークゾーン
ミニボウルセクション
フラット&ビギナーゾーン
屋内ゾーン、管理棟



パークHP



ムラサキパークかさま 全景



ストリートゾーン



パークゾーン

■公民連携の取り組み

笠間市では「笠間市公民連携に係る基本方針」を策定し、すべての分野におけるソフト及びハード事業を対象として公民連携を推進しています。スケートパークにおいても、その整備効果を最大限に発揮し、効率的で質の高い持続可能なサービスの提供を図るため、様々な公民連携手法を取り入れました。

(1) 指定管理者制度の導入

スケートパークという施設の特殊性から、「公」で管理運営し維持し続けることは困難だと考え、運営のノウハウを持った「民」を導入することとしました。

指定管理の導入にあたり、指定管理料を支払わない独立採算の運営を前提としたため、民間事業者の手が挙がらないことも懸念されました。そこで、事前に既存の民間施設の視察やヒアリングを重ね、その結果を踏まえた募集条件を設定することで、自社のスケートパークの運営実績や大会・イベントの豊富な開催実績を持つ(株)ムラサキスポーツを選定することができました。

■経緯と背景

笠間芸術の森公園は、笠間の陶炎祭をはじめとする市内の主要イベントの会場となっているほか、陶造形物が屋外に展示されている陶の杜、県陶芸美術館、ローラー滑り台やふわふわドームが人気のあそびの杜など、多彩な施設が整備され、多くの来園者に親しまれています。

しかし、残されている未開園区域の活用や、若者への訴求力等が課題となっていたことから、平成26年度から県と市で整備の検討に入りました。若年層や広域からの誘客、近隣にない施設ということを考慮し、東京五輪の正式種目としてスケートボードが採用されたことも後押しとなり、条件に合うスケートパークの整備を決定しました。事業分担は、県が設計から施工を担い、市は一部施設の施工及び管理運営を行うこととなりました。



指定管理を導入したことの効果としては、まず1つ目は、財政負担の軽減です。独立採算制にしたことにより維持管理コストの縮減が図られました。2つ目は、施設の魅力向上です。技術や経験を持つ指定管理者による、利用者に寄り添ったサービスの提供や安全対策、選手の育成、日常の維持管理等により、利用者の評判も上々です。アメリカやフランスの東京五輪事前合宿地に選ばれたことも、公民連携により優れたパーク設計を行った効果といえると思います。

また、併せてネーミングライツを導入したことで、自治体の財源確保に繋がるだけでなく、施設のブランド力向上、指定管理者のモチベーション向上など多くの効果をもたらしています。



稲田石と笠間焼を活用した園銘板

(2) 笠間スポーツコミッションの設立

地域スポーツコミッションは、地方公共団体、スポーツ団体、観光団体、民間企業等が一体となり、スポーツを通じた持続的なまちづくり・地域活性化に取り組む公民連携組織です。この設立によって、指定管理者の運営を地域が一丸となってバックアップし、スケートパークを単なるスポーツ拠点のみならず、地域活力向上の大きな波及効果につなげることを目指しています。スポーツコミッションが中心となり、市民向けのスケートボード普及イベントなどを開催しているほか、日本スケートボード選手権の誘致を実現しました。

日本スケートボード選手権では、東京五輪金メダリストをはじめとする国内トップレベルの選手も参加し、約3,000人の観客が来場するなど、大いに盛り上がりました。また、スケートボードの体験会や、ボルダリング、スラックラインなど様々なスポーツに親しんでもらえるサイドイベントを同時開催することで、多くの人に楽しんでもらうことができました。



日本スケートボード選手権



初心者向けスクール



ボルダリング体験

(3) 民間人材の活用

スケートパークを活用したまちづくりを展開するにあたり、独自のネットワークや柔軟な発想による活動ができる人材を確保しました。

①地域おこし協力隊

都市部から地方に移住して、地域ブランド創出や地場産品の開発・広報等の支援を行いながら、定住・定着を図る取り組みです。独自の企画でパークを盛り上げています。

②地域活性化企業人

都市部の企業の社員が、一定期間、地方公共団体に勤務し、ノウハウや知見を活かし地域独自の魅力向上に繋がる業務に従事することで、地方への人の流れを創出する取り組みです。スポーツを生かした活力あるまちづくりを進めています。

■まとめ

ご紹介したほかにも、現場見学会やイベント開催など、施設の整備効果を最大限に生かすため、様々な取り組みを行っています。これらにより、狙い通り、若者や広域からの誘客が図られていることに加え、スポーツ庁から「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を受けるなど、外部からも評価していただきました。

今後は、さらにまち全体の賑わい創出、地域活力に繋げていけるよう、引き続き公民連携体制で取り組みます。将来的には笠間市がスケートボードの聖地となり、地元選手がオリンピックで活躍する姿に期待しています。